

2025年AIPPI横浜 国際総会

日本弁理士会 国際活動センター

2025年9月13日～16日にパシフィコ横浜で「2025年AIPPI横浜 国際会議」が開催されました。年に一度、各国の会員が一堂に会する本総会は、日本での開催が33年ぶり3回目となります。日本弁理士会 国際活動センターも参加し、ブース出展や各国の知財関係者との会議、ネットワーキングを積極的に行いました。

参加者は2,800名を超え、そのうち日本からは300名以上の弁理士が参加しました。知的財産分野のイベントとしては極めて大規模なものです。ここでは国際的に制度調和が望まれるテーマについて議論が行われ、最終的にAIPPI全体の意見として決議が採択されます。本決議は、国際機関が政策を検討する際に民間の意見として参考されてきました。加えて、世界各国の知財トレンドや課題を知ることができ、専門家同士が交流できる点もAIPPI総会の大きな魅力です。

AIPPIとは？

国際知的財産保護協会の略称。国内並びに国際的な知的財産保護の推進と、条約・協定等の発展・拡張・改善既存の各国知的財産法の研究に基づく国際的なハーモナイゼーションを実現する手段の提言を行う世界的な機関。

68カ国、8700名以上が参加をしています。※2025年7月4日現在

国際的に活躍する弁理士

01 世界の知財の専門家と繋がり日本の知財を守る

弁理士というと「国内の特許出願や商標登録を扱う仕事」というイメージを持たれる方も多いかもしれません。しかし実際には、国内の出願はもちろん海外展開を志向する企業から各国の特許・商標制度に関する相談を受けるなど、国際的に活躍できる土業です。国ごとに制度や書類記載のニュアンス、出願トレンドが異なるため、海外の代理人との強固なネットワークが重要となります。今回の会議でも、こうしたコネクションを築くために多くの専門家が積極的に交流し、会場内外の談話スペースやカフェなどで活発な議論が交わされました。

総会には弁理士のみならず、日本の特許庁、大手グローバル企業の知財責任者、各国の特許庁長官、さらには世界知的所有権機関（WIPO）の関係者も参加しました。日本弁理士会のブースには数百名が訪れ、特許制度

が未整備な国から「日本の制度を参考にしたい」という相談や、日本国内の特許出願に関する質問、日本弁理士会との関係強化を望む声が寄せられました。早くから特許制度を確立し多数の出願を行ってきた日本が、依然として世界から注目されていることを改めて感じられました。



プラチナスポンサーとして参加



ポーランドの弁理士会会長との会談



はっぴを着てブースを盛り上げる国際活動センター



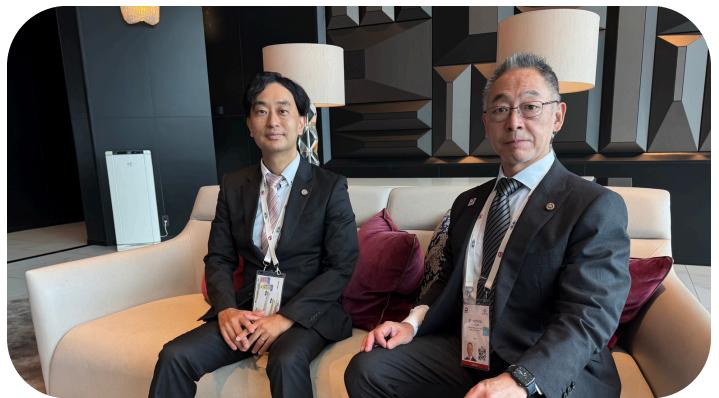
全て英語の案内が各所に

02 若い世代の活躍も応援する日本弁理士会

一方で、AIPPIは世界的に権威ある組織であるものの、登録料や参加費が高額なため、国際派のベテラン弁理士の参加が中心という現状もあります。そこで今回、総会に参加していない弁理士にも国際交流の機会を提供するため、船上パーティーを企画しました。参加費を抑え、これから世界に挑戦したい弁理士にも門戸を開くことを意識しています。約150名が参加し、そのうち半数が海外からの参加者で、活気ある交流の場となりました。



船上レセプションの様子



話を伺った日本弁理士会会长（右）と副会長（左）

今後も日本弁理士会は、より多くの弁理士が国際的なネットワークを築き、活動の幅を広げられるような取り組みを進めてまいります。